関東・甲信越

茨 城 県	小池康隆さん		水泳	14
	菅谷 隆さん		マラソン	15
栃木県	小林良司さん		剣道	16
	松本たけ子さん		ゴルフ	17
群馬県	岩本敬一さん		弓道	18
	丸山 徹さん		ラグビーフットボール	19
	森田安二さん		将棋	20
東京都	小野 清さん		マラソン	21
	竹松 健さん		剣道	22
神奈川県	石川ツルミさん		インディアカ	23
	平出純子さん		卓球	24
	森川信幸さん		剣道	25
山梨県	杉田 明さん		ウォークラリー	26
長野県	岡田明義さん		ダンススポーツ	27
さいたま市	大久保慶子さん	12	ウォークラリー	28
	菊池利春さん		ソフトテニス	29
	吉川洋一さん		ソフトテニス	30
横浜市	髙橋英子さん		ターゲット・バードゴルフ	31
	山岸慶治さん		ダンススポーツ	32



水泳

バタフライ 25m · 50m (監督兼選手)

こ い けやすたか

小 池 康 隆 さん 73歳 ●参加歴:2回目

特別な思いを抱いて参加したふるさとながさき大会

ながさき大会の総合開会式は素晴らしかった です。施設も立派でしたが、観光立県らしく「も てなしの心」をよく心得ていると感じ、長崎出 身者として誇らしく、心が高鳴って止みません でした。

翌日長崎市民総合プールにおいて水泳競技が 始まりました。茨城県代表の大貫選手が50 m 背泳ぎでいきなり金メダル。この快挙に選手団 は勢いづき、平泳ぎで中村選手と松井選手が銅 メダル。私も 50 mバタフライで金メダルに輝く ことができました。この勢いは翌日も止まらず、 大貫選手が25 m背泳ぎでも金、25 m平泳ぎで 松井選手が、25 m背泳ぎで山口選手が、銀。私 も25 mバタフライで金と、茨城県勢は大活躍 でした。

県代表8名は、初顔合わせのメンバーがほと んどで、監督としてチームワークを心配してお りましたが、この活躍で一気に盛り上がり、歓 喜の友情が芽生え、腹心の友を得 たようでした。

さらに滞在中、夕食や観光を通 じても、メンバーとのふれあいを 楽しみました。さらに他県選手、 役員、旧友とも互いの健闘の中 に友情を深め合うことができまし た。これがねんりんピックの目的 であると確信した次第です。

私事ですが、ながさき大会には 特別な思いを持って参加しました。 1943年9月に長崎市で生を受け2 歳直前に原爆が投下され、被爆者 になりました。幸運にも山の稜線 の陰で直撃を免れましたが、食糧難などで栄養 失調になり成長が著しく劣っていました。がれき の残る遊び場で貧弱だった子どもが、50余年の 時を経て水泳で活躍する雄姿を、ふるさと長崎 市民に見てほしい、と出場を決めたのです。

茨城県民になりもう45年です。第2の故郷と いえる地元茨城の 2007 年大会では、50 mバタ フライで、僅差で長崎県代表に負けて2位にな り、非常に悔しい思いをしました。しかし、そ れよりも、ふるさと長崎市、それも原爆記念公 園隣の長崎市民総合プールで、長崎市民の声援 を受けて、長崎市と茨城県の名誉のために優勝 を決めたい!というのが本音でした。今、県代 表の大活躍とともに多くの友情がつながり茨城 県代表監督兼選手としてほっとしています。

ながさき大会の関係者、応援団、ボランティ ア、マスゲームの小中学校の皆さん、感動をあ りがとうございました。



大活躍をみせた茨城県選手8名。歓喜により大きな友情が芽生えた。(後列右端)



マラソン 3km

ナがや たかし

菅 谷 隆 さん 72歳 ●参加歴:1回目

初出場で叶った優勝に感無量、全力で走れる身体に感謝

退職後の65歳の年、病で入院して体重が減少。 体力の衰えに不安を感じ、退院後は健康のため に歩くことを始めました。そのうちに、歩くだ けでは物足りなくなり、市内の公園内の芝生の グラウンドを走るようになりました。青空の下、 緑色の芝生の上を走るのは爽快で気持ちが良く、 毎日続ける力になっています。そして、走るこ とに自信が持てるようになり、数年前から県内 で開催されるマラソン大会に参加しています。

昨年出場した茨城マスターズ陸上競技選手権 大会で、ねんりんピックの参加募集があり、応 募した結果、協会からマラソン3kmの代表と して推薦をいただき、出場が叶いました。

今回のながさき大会は、10月15日から18日の会期で、長崎入りした14日は、夕食時の決起会で、各競技の選手と交流、そして同じマラソン代表となった坂本さん、須藤さんとお互いの健闘を誓い合いました。

15日、総合開会式の選手団入場で、「茨城県 選手団」と紹介のコールがあり、帽子を振って 声援に応えた際には、これまでにない高揚感が 湧き、走る意欲が高まりました。

16日、マラソン大会本番です。前夜に雨が降り

心配しましたが、 くもりでほっとも ました。会場は 東市の長崎総合運 動公園ジョギング コースで、競技場 外周の第1ゲート をスタートし、芝生 広場やプール等の



緊張しないようリラックスを心がけ、スタート位置で号砲を待つ。(中央付近 325 番)

外周を通り、場内のトラックに入ってゴールします。 3km の競走は、水戸市内の千波湖で何回も走っており、タイムは 12 分前後になると予想。普段の走りをすれば結果は出ると思い、スタート地点につきました。

10 時 30 分にスタート。リラックスして走ることを心がけて、先頭集団から離れないように走りました。スタジアム内に入ると、急に身体が重くなり、ラストトラック1周、ゴールが遠くに感じましたが、全力を振り絞ってゴール。喘ぎながら完走証を受け取り、1位であることを確認すると同時に、満足感と開放感を味わい、疲れが吹き飛びました。

72歳で初めて出場した大会で、優勝できたことは、本当に幸運であり、一生の思い出になりました。走り始めて8年になりますが、「継続は力なり」を実感しました。また、大会で80歳以上の方が出場し、力強く走っている姿に強い感銘を受けました。全力で走れる身体に感謝して、今後も走り続けていきたいと思います。

最後に長崎県の方々と茨城県の役員の方々に 感謝と御礼を申し上げます。



全力を振り絞りゴールした感動の一瞬。(中央)



剣 道

こばやしりょうじ

小林良司 さん 65歳 ●参加歴:2回目

五島市の皆さんの「おもてなしの心」に触れた大会

「ねんりんピック長崎 2016」の剣道交流大会は五島市で行われた。前回大会(山口県)は、県選抜予選の決勝で敗れ、出場が叶わなかっただけに、今回出場できたことには、大きな喜びを感じた。また、行ったことがない五島列島に行けることも嬉しかった。

大会は10月16日(日)と17日(月)の2日間だったが、15日(土)に監督会議や合同開始式があるということで、出発は14日(金)だった。羽田発11時15分の便で長崎空港へ。長崎空港からさらに飛行機を乗り継ぎ、福江空港に到着したのは午後3時を過ぎていた。宿舎になっていた「五島コンカナ王国」に到着した時には、外国に来たかのような思いがした。

試合は、予選リーグ1勝1敗で決勝トーナメントに進むことができず、残念な気持ちもあったが、正々堂々と勝負をし、5人がそれぞれ力を発揮できたことに、充足感が味わえた素晴らしい大会だった。

五島市立福江小学校の2人の児童の歓迎メッ

セージには心温まる思いがした。出場選手は皆同じだっただろう。「キバレ!」と励まされれば頑張りもする。海と鬼岳がおすすめと言われれば行ってみたくもなる。福江武道館での稽古後、監督会議までのわずかな時間ではあったが、レンタカーを借りて島内観光をした。「お土産はかんころ餅」とやはり2人の児童に勧められていたので、もちろんたくさん買ったのだった。

長崎県や五島市剣道連盟の皆様、役員の皆様に温かい歓迎を受けただけでなく、観光や市街地散策では、地元の方々に挨拶してもらったり、道案内をしてもらったりして、迎える側になったらぜひこうしたいという目標になった。剣道交流とともに、おもてなしの心にも触れた「ねんりんピック長崎 2016」は、いつまでも選手の心に残ることだろう。

また、4泊5日の行程で臨んだ今回の大会参加を、綿密な準備で支えてくれた栃木県の役員の皆様のお心遣いも決して忘れることはできないだろう。



福江空港に向かう飛行機の前で。空から眺める 五島列島の景観に心躍る。(中央)



惜しくも決勝トーナメント出場を逃したが、 全員が全力を発揮できた。(右から2人目)



ゴルフ

絶好のロケーションでのプレイに、夫婦で大満足

「ねんりんピック長崎 2016」への参加は、私にとって思ってもみなかった幸運でした。ゴルフの会場になる「パサージュ琴海」は、前年日本女子オープンゴルフが開催された名ゴルフ場で、大村湾に面するロケーションに、海越えのホールが4カ所もある難易度の高いコースです。ゴルフ好きの主人も同行することになり、大会に備えて体調を崩さないようにしながらの練習した日々は、張りのあるものでした。

1日目の夜は、長崎市内のホテルで全員の食事会がありました。名物料理を楽しみながら、同席の方々のお話を聞くなど和やかなひと時でした。

総合開会式は晴天に恵まれ、私も栃木県選手団の一人として、可愛らしい苺の紙風船を手にスタジアムを行進しました。ご臨席の皇族からのお言葉の後、音楽隊の演奏など盛りだくさんの歓迎イベントが催されました。出演者は小学生から社会人と幅広く、中でも車いすの子どもたちがダンスに参加している姿には感動しました。

翌日から私たちゴルフの選手が宿泊したホテルは、コースに併設されているので、移動や練習にも便利で快適でした。3日目の練習ラウンドは、選手の相田さん、鈴木さんと主人との4人でのプレイです。主人は、これを楽しみに来たので大満足でした。

競技会当日、私は7時の1番スタートでした。 5時半に朝食をすませ3人で練習場に行き、夜明けと同時にボールを打ち始めました。早朝からの練習は、学生時代の合宿のようで新鮮な気分でした。競技は青森、山形、宮城の男性3人と同組でした。ゴルフ好きが集まっているので、他県のゴルフ事情などさまざまな情報交換ができ、話は尽きませんでした。私は、練習ラウンドの成果が出たのか、海越えのホールも無事クリアできて思い出に残るラウンドでした。

長崎県の方々のおもてなし、また選手団派遣 に関わる事務局の方々のご配慮に夫婦共々感謝 しております。





無事交流試合を終えて。海越えのホールもクリアし、 思い出深い大会になった。(中央)

練習ラウンドには夫婦で参加。これを楽しみに同行を決めた夫も大満足だった。(右端)



弓 道

いわもとけいいち

岩 本 敬 一 さん 75歳 ●参加歴:2回目

ねんりんを重ねる楽しさ―夫婦揃っての出場を金婚記念・金婚旅行に

諫早湾に、まっすぐ伸びる干拓堤防道路を行く群馬選手団バスの前方、雲仙の山々が出迎えてくれました。翌日の開会式を皮切りに、その山の麓、島原市で弓道大会が開催されます。

群馬県で開催した2004年大会では役員として全国の選手の皆さんをお迎えし、翌年のふくおか大会には選手として参加することができました。以来、11年ぶり2回目の参加となります。今回も前回同様、夫婦での出場ですが、私たちにとっては特別な大会となりました。

というのは、参加のお誘いをいただいた時、これを金婚記念、金婚旅行にしようとのアイデアが頭に浮かびました。金婚など過去一度も思ったこともないのに。考えてみれば、半世紀の間大過なく過ごすことができたのも、弓道という同じ趣味に打ち込んできた結果でしょう。ご指導いただいた先生方には深い感謝です。華やかな開会式も、歓声も、私たちへのお祝い……ではないですね。ねんりんピックは、全て

ねんりんピック長崎2016総合開会式 様本の事本Sci

「群馬県チーム」全員、笑顔で開会式に臨む。(左端)

の高齢者への讃歌です。

群馬県弓道連盟会員の51%は60歳以上です。60歳以上のシニアだけで行われる年5回の大会は一般の月例会とほぼ同等の参加者数を誇るだけでなく、的中数も目を見張るものがあります。

古尾谷さん夫妻、監督兼任の近藤さん、岩本夫婦、交歓試合出場の宇佐美さんの6人の選手が決定した後、出発までに5回の合同練習を重ねて、そこそこの成果を挙げられるのではないかと思っていましたが、本番は魔物、惨敗でありました。弓道は特に精神状態が結果に関わるもの。金婚の2文字に浮かれる私への戒めであったかもしれません。しかし、地元の方たちの温かいおもてなしを受け、湯量豊富な温泉に浸り、美味しい山海の料理と焼酎をいただきながら仲間と語り、試合の相手と一期一会の語らいをすれば、試合の傷は癒やされ、ねんりんを重ねる楽しさを覚え、まだまだ輝けるシニアとして、ファイトが湧いてくるのでした。

大会終了後、レンタカーで雲仙、長崎市、 佐賀を回った3日間も、「ねんりんピック長崎 2016 | と共に金婚の素敵な記念でありました。



結果は予選敗退だったが、夫婦で同じ趣味に打ち込み、 健康である喜びを感じた。(右端)



ラグビーフットボール

「群馬惑惑倶楽部」チーム

まるやま とおる

丸 山 御 さん 63歳 ●参加歴:3回目

いくつになってもプレイできる喜び。「できれば芝生の上で死にたい」

開会式が行われた「諫早トランスコスモススタジアム」は大会参加者約10,650人全員をグラウンドに整列させられるほど巨大な競技場だった。これならワールドカップを招致できるのではないかと思いながら入場した。入場行進の際の吹奏楽団の演奏では、『長崎は今日も雨だった』など長崎県に関係のある曲が多かった。そんな中、大ファンであるさだまさしの『がんばらんば』も演奏された。この曲は体操にもなっていて、長崎県民は皆学校で踊ったらしい。式後の交流会場で実演指導され、私も明日のためのストレッチ代わりに踊ってみた。

初戦は地元長崎Aとの対戦で、前半圧倒されて3トライされてしまった。後半ようやく2トライして追いすがったが、結局10:22で敗れてしまった。慣れないマウスピースとヘッドキャップをしてのプレイは辛く、また、5年前にアキレス腱を切った人工芝で、不安に感じたが、なんとか頑張った。

夜の懇親会、参加26チーム中18が集まり盛り上がった。こんな年になっても、体中に湿布を貼ってでもラグビーをしたい"バカ者たち"の集まり。勝ち負けは関係なく、まだプレイできることが嬉しくてたまらないのだ。「できれば芝生の上で死にたい」と豪語している人も私を含めて多数いた。

翌日の2戦目は、36:10で 神戸市に大勝することがで きた。私もトライやタックルを決め大満足だった。最後の晩の酒宴でも話したが、最年長の75歳でありながらフル出場し、スクラムハーフとして必ずポイントからポイントまで走り、正確なパスを出すチームの副会長には感謝を述べたい。私のモットーとしている「あせらず、あわてず、あきらめず」を見事に実践されている方なので、今後もお手本にしたいと思っている。

帰りの車内で埼玉から卓球に参加した女性と 隣り合わせになり、競技こそ違うけれどこんな 年までプレイできる喜びの話で盛り上がった。 ラグビーは2015年ワールドカップでの日本代表 の奮闘や五郎丸ブームで人気が再燃している。 一方卓球は福原愛ちゃん人気に加え、男子でも 水谷隼選手がメダルを獲得したことで、競技イ メージがアップしているようだ。この上昇気流 の中、私たち高齢者が頑張っている姿を見せる ことで、生涯スポーツとしてより定着させてい きたいと思う。



大村市での3競技合同開会式で、元ラグビー選手の大村市長(前列中央) と共に。(後列左端)



将棋

「桐生・みどり」チーム (監督兼選手)

もりたやすじ

森 田 安 二 さん 76歳 ●参加歴:4回目

成績は振るわなかったものの、幸せな思い出に

私は小さな町工場を経営しており、76歳になった今もたくさんの仕事の依頼があり忙しく働いております。一方、長年にわたり趣味として将棋をこよなく愛好し、土曜日午後には2時間ほど近隣の小学生を集めた将棋教室を開き、仲間と共に指導を行っております。そんな経緯もあり、将棋連盟群馬県連合会の推薦を受け、今回4回目となりますが、「ねんりんピック長崎2016」に参加することになりました。

群馬、石川、栃木と、今までに参加してきた 大会と比べ遠方であり、群馬県選手団はだいぶ 少なかったのですが、それでも100名以上が参 加しました。全国の選手団を合計すると1万人 強。各県・各選手団・各部門それぞれ、移動や 食事を行うので大変です。いしかわ大会の時に はバイキング形式の店に一列縦隊150名。最後 の方の人は30分以上待たされ、すきっ腹に堪え る……といったこともありました。今回もやはり、

福从从此少250年2016 中棋交流大会

団体戦を共に戦ったチームメンバー。初参加の 2人を大将として率いた。(中央)

宿泊施設の手配に苦労されたようです。将棋部門の宿となったところは割烹旅館でしたが、5名定員の和室に襖一つの仕切りを設け2人が入るという部屋割りでした。しかし食事に関してはさすが割烹旅館。最高でした。同室になった広島県代表選手とも自然と交流ができたので、参加の目的のうち、まず一つを達成できたと思います。

そして、もう一つの参加の目的である交流大会ですが、1日目は、3人1組の団体戦が行われました。4チームのリーグ戦で、1位のチームだけが次の日行われる決勝トーナメントに進みます。我がチームは初参加の2人が1回戦・2回戦共に勝ちましたが、私が不調で3連敗してしまい、決勝に進めませんでした。2日目は個人戦をトーナメント形式で行います。2人は2連勝ずつしてまずまずでしたが、ここでもやはり大将の私がだめでした。

午後の時間は余裕があったので、観光地長崎を満喫することに。眼鏡橋、平和記念公園、夜景見物と、いずれも路線バスに乗って、地元の方に尋ねながら向かいました。道を尋ねたら、わざわざスマホで調べながら一緒に歩いてくださるなど、地元の方々の優しさにも触れ、長崎でのとても幸せな思い出ができました。



個人戦でも初戦敗 退と悔しい思いを した。(中央)



マラソン 10km

ぉ の きょし **小 野 清** さん 74歳 ● 参加歴:1回目

成績には悔いが残るも、人生の良い思い出に

10月15日(土)に開催されました「ねんりんピック長崎 2016」のマラソン交流大会に参加しました。ねんりんピックに参加するのは初めてです。

共にマラソン交流大会に参加した「東京都 A・B」チームの選手の皆さんが、全員表彰台に上る中、私の成績は今一つでした。70 歳以上男性の10kmコースに出場しましたが、タイムが51分19秒。16位。自己採点するならば、80点です。前のレース(5km)で、グラウンドに帰ってきてから倒れる人が何人かいて、それを見ていた私は弱気になってしまいました。少し考えすぎでしょうか。

練習の成果を出し切ることができなかったことから、帰宅直後は残念な気持ちでしたが、何日か過ぎて、ようやく行って良かったと思えるようになりました。

マラソン競技は、諫早市にある、長崎県立総

合運動公園陸上競技場で開催されました。

諫早市は、長崎県のほぼ中央に位置する長崎 県第3の都市で、自然の恵み豊かなところです が、日本体操界初のプロ転向で話題になった、 体操の内村航平選手の出身地だそうです。会場 でボランティアの子どもたちと話をすると、と ても嬉しそうに教えてくれました。「内村航平選 手のお父さんに体操を教えてもらった」と自慢 げに話していた子どももいて、ふるさとの誇り なのだな、と感じました。

今回の大会参加のためにご尽力くださった、 東京都体育協会、東京陸上競技協会の皆さん、 また私たち選手団の旅行手配をしてくださった JTBの皆さん、大変お世話になりました。

そして、共に走った「東京都 A・B」マラソンチームの皆さん、楽しいひと時をありがとうございました。人生の良い思い出となりました。またお会いできる日を楽しみにしています。



公園内、きれいに整備されたコース。



ゴールシーン。目標タイムに及ばず、思わず苦笑い。



剣 道

「東京都 B」チーム (監督兼選手)

たけまつ けん

竹松 健さん 87歳 ●参加歴:5回目

5回目の参加で高齢者賞を受賞。生涯現役を貫きたい

私は、今回の「ねんりんピック長崎 2016」が ねんりんピック 5 回目の参加です。

過去4回、各県で開催された大会に参加してきましたが、今回の「ねんりんピック長崎2016」ほど、開催地の皆さんの心温かな歓迎ぶりに驚かされたことはありません。本当に感動しました。

会場運営・組織運営の皆さん、各部門の係員 の皆さん、医師の方々をはじめ、空港やホテル、 病院や交通機関の皆さん、そして町の方々。ど こに行っても、皆さんが全国各県からの代表選 手団を「おもてなしの心」で温かく迎えてくだ さり、どんな場面でも徹底して歓迎してくださ いました。その美挙に心から感謝申し上げます。

今回唯一残念だったことが、剣道関係者が、 大会会場の都合で、10月15日に開催された総 合開会式に参加できなかったことです。これま での参加経験を振り返ってみても、総合開会式 への参加は、参加者の心に、そして、それぞれ の人生に、深く刻まれる経験です。思い出に残 る総合開会式ですので、次回からは何とか参加 が叶うように調整していただきたいと念願いた します。

交流大会での成績は、団体戦で優秀賞を、個 人では14位でしたが、高齢者賞をいただきま した。

年齢と共に肉体は衰えますが、高齢になりましても、若さに代わる何かがあると信じて、稽古に励む日々です。もちろん、生涯現役を貫くつもりです。一日一日、剣の理合と気力を磨き、シニア世代を楽しく駆け抜けたいと思います。

終わりに、東京都体育協会はじめ、東京都の関係者の皆様に御礼を申し上げたいと思います。本年度の大会に参加させていただき、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



5回目の出場となる今回は、大将(監督兼選手) としてチームを率いた。(中央)



インディアカ 「カナディー」チーム

より多くのインディアカ仲間に参加してほしい

神奈川県スパーシニア大会の成績により、協会からの推薦を受けて、参加が決まりました。複数のチームから選ばれた男子3名、女子4名の混合チームで、チーム名は、神奈川県インディアカ協会のマスコットキャラクターから「カナディー」です。

大会前日の10月14日は羽田から福岡へ飛び、宿に移動しました。到着後は、チームで団結し、夜の懇親会に向けた出し物の練習。その甲斐あって、披露した出し物は大うけで盛り上がり、楽しい夜になりました。

翌日の朝、諫早市に向かい、総合開会式に臨みました。47 都道府県と20 政令都市の選手団、1万600人の入場行進を経験。マーチングバンド、ダンスパフォーマンス、郷土芸能、吹奏楽隊、合唱隊などのステージにも感動しました。午後は、競技が開催される波佐見総合文化会館に移動し、開始式に参加。ここでも無形民俗文化財皿山人形浄瑠璃、波佐見児童合唱団のステージに感激しました。



チームの他の女子3人は、とちぎ大会に参加経験があり、初出場の緊張をほぐしてくれた。(前列左端)

10月16日、競技初日。波佐見体育センターで 入場行進ののち、いよいよ競技開始です。女子10 チーム、混合14チームの戦いでしたが、混合は2 つのブロックに分かれ予選があり、栃木県、徳島 県、長崎県と対戦しました。結果はブロック別の3 位通過でした。

10月17日、決勝戦は、1・2位グループ、3・4 位グループ、5位グループ以下に分かれ戦い、我が カナディーチームは14チーム中8位になりました。

閉会式ではチームのプラカードを持って体育館を一周。波佐見のスタッフの方たちと感動のハイタッチでお別れをしました。期間中、波佐見のスタッフの方たちにはとてもお世話になりました。体育館には、だご汁、くじら汁、スポーツドリンク、お茶などの無料の飲み物コーナーや休憩所が設置され、マッサージ学校の先生、生徒さんがケアにあたってくれました。そのおかげで試合もとても頑張れ、感謝しています。他のチームの方たちとも仲良くなれ、充実した大会でした。

これまでに開催された29回のねんりんピックで、インディアカは4回しか開催されていません。数々の感動を生み、友好の輪を広げるこの大会に、より多くのインディアカ仲間が参加できるよう、開催頻度が増えることを希望します。



懇親会の出し物にも、 チームの団結力を発揮。 大いに盛り上がった。 (前列右から3人目)



卓 球 「神奈川ゆり」チーム

ひらいでじゅんこ

平 出 純 子 さん 65歳 ●参加歴:3回目

一致団結して声援を送り合う、団体戦ならではの面白さ

ねんりんピックへの参加は、今回で3度目になりますが、今回のながさき大会も期待を裏切らず、心に残る大会となりました。私にとってねんりんピックは特別な大会です。それは、私が参加する大会の中で、このように大きな大会は他にはなく、この大会を通じて、競技のみならず、いろいろな出会いがあるからです。

例えば、開会式を彩るさまざまな年齢の方々によるアトラクションです。郷土の伝統芸能を盛り込んだ壮大なパフォーマンスは、本当に圧倒されるばかりです。また、大会中にいただく、開催県各地の味を詰め込んだお弁当は、私の大のお気に入りで、地元の味を堪能することができます。その他、大勢のボランティアの方々を含め、県を挙げてのおもてなしには、いつも感謝の気持ちでいっぱいになります。

数年前、体力維持のため、と若い頃やっていた卓球を再開しました。クラブに所属し、練習をするうちに、試合に出るようになり、それが小さな目標になりました。

試合に出ると、自分の技術はまだまだと感じますし、次はもう少し何とかしたいと考え、練習にも集中して参加できるようになります。そして、この年齢でも練習すれば技術が向上するということがわかると、それまで以上に卓球が面白くなります。

ねんりんピックも目標の1つです。試合は 団体戦 (男子シングルス 2、女子シングルス 2、混合ダブルス1)で、普段の試合よりプレッ シャーがかかりますが、監督を中心に一致団結 し、大きな声でチームメイトに声援を送ったり、 その声援を受けて自分が戦ったりという醍醐味 を味わうことができます。卓球をしていなけれ ば味わえない気持ちなので、大変だけど楽しい と感じています。

今回の私たちの成績は、3位グループでトップになり、トーナメント戦に出場することができましたが、優勝した北海道に2対3で惜敗し、ベスト8でした。結果は厳しいものになりましたが、次のねんりんピックにまた参加できるよう、

今後も自分を高めていけたら と思っています。



福岡から長崎へ向かう途中。移動も、チームの団結力を深める貴重な時間。(左から2人目)



試合を終えた後は観光も満喫。メンバー全 員で平和記念公園を訪れた。(左から4人目)



剣 道

もりかわのぶゆき

森川信幸 さん 66歳 ●参加歴:1回目

実力伯仲の予選ブロック。奇跡の勝利で1位突破!

五島市で開催された剣道大会に、副将として 出場しました。

試合は、66 チームが16 ブロックに分かれて 予選リーグ戦を行いますが、通常の総あたり方 式とは異なり、各チーム2試合しか行いません。 最も勝者数の多い1位が決勝トーナメントに出 場できます。神奈川県は、ここ数年チームは負 けないのに予選敗退という悔しい思いをしてい ました。昨年も対戦相手の2 チームにそれぞれ 3対1と勝ちながら2位でした。つまり対戦し なかった1 チームも同じく2 勝し、勝者数の差 で敗れ予選を通過できないのです。

最初の試合は北海道で、結果は1勝1敗3分(勝ち本同数)の引き分けでした。「ああ、これで今年も予選突破は無理かな」と、監督も選手もかなり落ち込みました。ところが同じブロックの愛媛県対名古屋市の試合が2勝2敗1分で、勝ち本数1本の差で愛媛県が勝ちました。ということは、この後の愛媛県対北海道の試合

決勝トーナメント終了後。ベスト8の快挙を果たし、 皆笑顔。(左から3人目)

で北海道が勝てば、神奈川県にも1位の可能性が出てくることになります。私の気持ちが通じたのか、北海道は3勝1敗1分で勝ちました。

この結果、神奈川県が1位になるためには北海道を上回る4勝をすればいいわけです。俄然チームの士気が上がりました。そしてなんと、名古屋市に4勝1分で勝つことができ、悲願の予選1位を実現しました。引き分けから1位になれたのは、本当に奇跡に近いことだと思います。ましてやこのような全国大会で、5人が負けなしという試合はそうそうあることではありません。

ブロックで対戦した各チームの実力が伯仲 し、思い出に残る素晴らしい試合が行えました。 その日の夜は、対戦チームへの感謝をしつつ、 皆で美酒を酌み交わし、明日の決勝トーナメン トでの勝利を誓う宴となりました。

翌日の決勝トーナメント1回戦は静岡県に2 勝1敗2分で勝ちましたが、次の準々決勝で茨城県に1勝2敗2分で敗れ、ベスト8という結果でこの大会を終えました。

こうして4泊5日の「ねんりんピック長崎 2016」 は終わりました。五島から長崎まではフェリー で3時間半。帰路の空は晴れ渡り、波穏やかで 大変気持ちよい船旅でした。



開会式を前に。諫早市 で行われた総合開会式 には参加が叶わなかっ た。(後列、左端)



ウォークラリー 「山梨楽遊」チーム

すぎた あきら **杉田 明**さん 79歳 ●参加歴:4回目

競技に観光に、盛りだくさんの5日間。感謝・感謝

10月6日、山梨県選手団の結団式が緑が丘の体育館であり、やっと長崎に行けるんだと喜びの実感が湧いてきました。

そして迎えた10月14日の朝7時。山梨県選手団は、甲府駅北口をバス3台で羽田に向けて出発。18時30分頃、長崎の宿「長崎温泉やすらぎ伊王島」に到着すると、安堵し、ゆっくりと館内のいろいろな湯に浸かってから就寝しました。

15 日は、早朝からバスで諫早市の県営総合運動場に向かい、全国の選手と共に開会式に臨みました。競技が行われるのは、日本遺産に認定された国境の島「壱岐」。移動のため、開会式終了後直ちに長崎空港に向かう必要があったのですが、バスが足りず急遽タクシーを捕まえることに。なんとか壱岐空港行きの飛行機に搭乗することができました。

壱岐市の宿に着いた時には、すでに暗く、周 囲が何もわからない状況でした。朝起きて、す ぐ下が海だったことに気付き、とても驚きました。 いよいよこれから、この島で競技が始まります。

競技会場の壱岐市文化ホールには市営バスを使って7時30分に到着。競技が始まって1時間

30 分が過ぎた頃、最後のチェックポイントである寺の観察が終わったのですが、そこから延びる裏山登山道は険しく、本当に堪えました。

いろいろありましたが、無事に競技が終わり、 我がチームは「海都くんコース」で3位となり ました。壱岐市の皆さん、大変お世話になりま した。特に、石田中学校の生徒の皆さんには、 全員に励ましのお手紙をいただき、知らない土 地で大変勇気づけられました。また、ご当地産 の「古代赤米」や「勾玉」のネックレスなど、 お土産までいただき本当に感謝です。

帰りは、その日のうちに長崎に戻り、翌日は朝から長崎観光をして、夕刻高速バスで博多へ。博多で1泊し、午前中に市内観光をして18時30分の便で羽田へ。深夜12時頃、無事帰甲いたしました。

おかげさまで5日間の旅を毎日楽しく過ごす ことができ、良い思い出ができました。

チームの皆さんはもとより、県社協はじめ関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。感謝・感謝です。ありがとうございました。



国重要文化財である人面石をモチーフにした壱岐市のゆるキャラ、「人面石くん」と一緒に。(右端)



競技会場に貼られた地元の子どもたちからの 歓迎メッセージに、勇気づけられた。(中央)



ダンススポーツ

「ナイスシニア信州」チーム

おかだあきよし

岡田明義 さん 64歳 ● 参加歴: 1回目

思いがけぬプレゼント――おもてなしの心に感動そして感謝

諫早市は好天に恵まれ、信州から来た我々には真夏のように感じられた。総勢1万人を超える選手が一堂に会した総合開会式は、初参加の私たち夫婦にとって、とても感動的なものであった。家内は、行進の際のアナウンスを任されていたが、練習の成果を出し切り立派に役目を果たした。

ダンススポーツ競技会は佐世保市の体育館 で開催された。始まる直前、スタッフが私を探 しあて、こんなことを伝えに来た。「3月16日 生まれの方にプレゼントがあります」。60年前、 九十九島が西海国立公園に指定された記念日と のこと。奇遇で幸運な出来事に驚き、私たちは 思わず顔を見合わせた。あとで、大きな熨斗に 包まれた目録を見ると、煮干しいりこ、いりこ だし、さらに鍋用のフグ、牡蠣が贈呈されると 書かれていた。全て九十九島に因んだ佐世保の 誇る絶品だ。それぞれの品を旬に合わせて3回 に分けて送っていただいた。1月末、最後に牡 蠣が届き、長崎の海の香りを味わいながら家族 で一気にたいらげた。私たちは、この日まで存 分に、ねんりんピックを楽しむことができた気 がする。

諫早市でも佐世保市でも、地元の中学生が大活躍していた。子どもたちの屈託のない笑顔が、どれだけ私たちに安心と勇気と感動を与えてくれたかわからない。競技会場には中学生たちが全ての都道府県の選手に向けて書いてくれたメッセージが、所狭しと掲げられていた。自分たちの親よりも年を重ねた60歳以上の選手たちのことを思いながらペンや筆を走らせている様子を思うと、胸が熱くなった。競技中も制服を着た女子

生徒がプラカードを持って、選手誘導をこなしていた。ありがとうと声をかけると少しはにかみながらニコッと笑顔を返してくれた。彼女たちは選手の踊る姿を見て何を感じていただろうか。

長崎県ダンススポーツ連盟の方や佐世保市の 役員の皆様にも大変お世話になった。大会当日 の運営はもちろん、全選手が練習できるよう、 会場を何カ所も設定してくださったり、一人ひと りに地酒や海産物がたくさん入ったお土産をご 用意くださったり、感謝の気持ちでいっぱいだ。

結果のほうは4つの種目で3位、4位、8位、8位、8位とまずまずの成績であった。首にかけてもらったメダルは陶器でできた珍しいもので、地元の風景が描かれていて良い記念になった。長崎県の皆様の温かい心と笑顔に包まれ、私たちの胸には、生涯消えそうもないほっこりしたものが残った。



夫婦で思い切り踊れた。結果も、スタンダード・ワルツで 第3位と奮闘。



ウォークラリー

おおくぼけいこ 大久保慶子さん 82歳 ●参加歴:11回目

「ヤングさくら草」チーム (監督兼選手)

危機を乗り越え何とか出場できた"憧れの舞台"

ねんりんピックは"憧れの舞台"。いつも夢に 見るほどに楽しんで参加をしています。

私たちの競技はウォークラリーですが、参加 に必要な5人以上の選手を集めるのはなかなか 大変です。第一の難関は金銭面、第二は4日間 家を空けられるか、そして、最大の第三の難関 が6キロ以上歩けるかです。

なんとか引率の私を含めて6名が決定し、ユ ニフォーム作成、参加費納入をすませました。 ところが、出発20日前にして一人が入院。2 週間前にしてもう一人が参加不可能になり、私 を含めても人数は4人に。事務局に5名でなけ れば参加ができないと言われ途方に暮れてしま いました。このようなことは初めてでしたし、 国境の島、壱岐・対馬に行けるととても楽しみ にしていただけに、落胆が大きかったのです。

幸い、直前で友人が参加してくれることにな

り、出場が叶いました。

私たちは羽田から福岡に向かい、フェリーで 直接壱岐に向かいました。会場都合で、15日の 総合開会式に参加できないことから、壱岐市の 計らいで、代わりに壱岐市内を観光させていた だくことになりました。

バス6台の大観光。さいたま市は1号車で青 森、岩手、山形、愛知のグループと一緒でした。 良い天気に恵まれ、紺碧の海と特に弥生時代の 歴史遺産の景勝地が素晴らしかったです。昔、 対馬と壱岐との連絡に使われたのろし台や、高 さ45メートルの海蝕崖の猿岩石など、さまざま 見学させていただきました。最後は焼酎酒造に 寄り、多くの方が銘酒を満喫していました。ホ テルでも、3泊共に、お肉やお刺身が山盛りの 美味しい料理が振る舞われ、感動しました。

16日の大会。私たち「ヤングさくら草」チー

ムは、「はるのちゃん | コースでゼッ ケン5番でした。小雨の降る中カッパ を着用し、コマ図をたよりに、途中で 出される課題やゲームをクリアしなが ら進むゲームです。隠されているタイ ムになるべく近い時間で5名がゴール しなければなりません。早くても遅く ても1分ごとに2点マイナスされ、合 計点が高いチームが優勝です。

残念ながら今回は入賞できませんで したが、個人としては、高齢者賞をい ただきとても嬉しかったです。立派な 盾と副賞として壱岐の特産物をたくさ んいただき、とてもありがたいことで した。心から感謝いたします。



壱岐市の配慮により市内を観光。まさにさるそっくりの猿岩石を前に。(中央)



ソフトテニス

男子ダブルス 「チームさいたま!

き く ちとしはる 菊 池 利 春 さん 60歳

参加歴: 1回目

ハイレベルな試合に高まった意欲。次は全国優勝!

私たち「チームさいたま」、ねんりんピック ソフトテニス競技選手6人は、ソフトテニス歴 は何年と数えられないほど、長くプレイを続け ているメンバーです。ソフトテニスが大好きで、 練習も大会への参加も自分から進んで、また、 誘われれば断れないタイプのメンバーです。

ソフトテニスはダブルス戦を中心とする個人 競技です。しかし、3チームや5チームによる 団体戦は、個人戦とは違った楽しさ、面白さが あります。

ねんりんピックのことは、先輩の選手からそ の楽しさを聞いていたことから、60歳を迎え、 予選会に参加することを決めました。出場する からにはベストを尽くしたいと思い、あえてい ろいろな選手に呼び掛け、ミックス、男子、女 子とも有力選手に予選会に参加していただきま した。その結果、精神的にタフで、技術もしっ かりした選手が勝ち残り、「チームさいたま」の レベルアップを図ることができたと思います。

迎えた本大会には、全国的に名の知られた選 手も多く参加され、上位トーナメントは、各 コートでレベルの高い試合が行われました。

その中で3位という成績を収めることができ ました。試合をするごとにチーム状態が良く なっていったので決勝進出をしたかったと思う のが正直な気持ちです。今大会の選手の中には 60歳になったばかりという選手もいますので、 次に出場機会があった時には全国優勝を目指し てもらえればと思います。

帰りの飛行機の中で感じたことは、今大会も 90歳近い人も参加していましたが、やはり健 康が一番大事なことだと痛感させられました。 優勝を目指すと言っても、健康でなければ予選 会にも出られません。逆に健康でありさえすれ ば、楽しみの幅は広がります。今大会に参加し たことにより、まだまだソフトテニスを楽しみ たい、そのために健康管理に気をつけ、全国優 勝という高い目標を持って、一日一日大事に過

> ごしていきたいという気 持ちが強くなりました。



チームは試合ごとにコンディションをあげ、見事3位入賞を果たした。(左から2人目) が、大会のレベルの高さに驚かされた。(左)



監督と共に。60歳を迎えての初参加だった



ソフトテニス

よしかわよういち 吉川洋一さん 61歳 ●参加歴:2回目

男子ダブルス 「チームさいたま」(監督兼選手)

優勝まであと一息――準決勝に大接戦の末敗れ3位

今年度のねんりんピックソフトテニス競技は、 長崎市を会場として開催されました。

大会初日の予選リーグは、広島県、福岡県、 福島県と同じブロックとなり、最初の試合がソ フトテニスの強豪県の広島県だったため、気を 引き締めて臨みました。この試合で勝利を収め、 そのまま波にのり予選ブロック全勝で1位トー ナメントに進出しました。

2日目の決勝トーナメント初戦は長野県、1 番手のミックスが勝利後、2番手の男子は苦戦 の末勝利し、準々決勝に進出しました。準々決 勝は宮城県、ミックス、男子とも勝利しベスト 4に進出しました。宮城県は前の試合で鹿児島 県と大接戦の上勝利を収めてきましたが、その 試合の疲れが残っていたようでした。また、こ の試合は、さいたま市選手団の竹内榮一団長の 視察と重なり、その応援の中で勝利を収めるこ とができ、皆さんに喜んでいただいたことが強 く印象に残っています。

準決勝の相手は、香川県、元気のいいチーム で、技術以上に気合いで勝ち上がってきたとい う印象でした。結果は、ミックスがファイナル 勝ち、男子ファイナル負け、女子ファイナル負 け、何度もチャンスがありましたが、大接戦の 末敗れ、悔しい思いをしました。

全国優勝まであと一息でしたが、全国3位と いう成績を収めることができました。表彰式は 長崎市長他来賓の皆様が列席され、大会の役 員・ボランティアの皆様も整列されて行われま した。華やかで厳粛な雰囲気の中、祝福を受け、 大変思い出に残るセレモニーとなりました。

大会は、長丁場となりましたが長崎の料理、 長崎の夜景、長崎の坂道を堪能し、また、ホテ ルは秋田県、静岡市、浜松市と同宿でしたが、 特に、秋田県チームとは遅くまでお酒を酌み交 わし、交流という目的も十分に果たせました。

以上、「ねんりんピック長崎 2016」での貴重 な体験の報告を終わります。



初戦を前にチームのメンバーと。強豪広島県との対戦を前に 気持ちを引き締めた。(右から3人目)



ホテルでは、長崎料理を堪能。他県チームとの 交流もでき、楽しいひと時になった。 (左から2人目)



ターゲット・バードゴルフ 「横浜市 TBG 協会」チーム

たかはしえ いこ

髙 橋 英 子 さん 72歳 ●参加歴:2回目

長崎ありがとうターゲット・バードゴルフありがとう

現在、横浜市のターゲット・バードゴルフ人口は620名程ですが、楽しみながら、毎日のように練習している方が多いように思います。

14年前、夫婦で友達に誘われ、初めてバードゴルフを知り、その奥の深さに魅了されていきました。このスポーツの魅力は、対戦相手がコース(攻略法)、自然(風等)、己(メンタル)であり、全てが自己責任であることです。

10月15日、快晴。開会式にふさわしい天気 でした。

全国大会特有の華やかさがありながらも、至るところで情報交換し合う姿が見られ、お国訛りも飛び交う、和やかなムードでした。一方で、次の日からの大会を気にした緊張感もあります。こんな雰囲気が私は好きです。

10月16日、試合会場に入りました。よく整備された、手入れの行き届いた芝のコースで距離は短めです。試合は16日、17日の2日間、パー54を2日間の合計で競い合います。短いコースだけに攻め方は難しいと感じました。OBを

したらパーを取るのは難しい。しかししっかり打っても、バーディーを取るには中途半端な距離が残り、無理して攻めれば、ボギーも覚悟しなければいけない。迷いましたが、1日目は攻めていきました。悪くはないものの、すっきりしない結果です。2日目になり、前日の反省もあり、午前中少しだけ我慢して、無理をしないパー狙いに切り替えました。昼にボードを見た時、「100%我慢してパー狙いに徹しよう」と決めました。結果は1位よりプラス3、3位よりマイナス2で準優勝でした。

次回同じようなコース設定に出会った時は同 じミスをしないようにと強く決めました。

今回一緒に長崎に行ったバードゴルフの仲間 3人は試合の合間、寸暇を惜しんで長崎の街を 散策しました。平和公園、天主堂、グラバー園、 軍艦島上陸等々……。そして、ホテルから見え る絵のような夜景、皆様の温かさに触れ、楽し く長崎を満喫できました。長崎ありがとう!

2021年には神奈川県でねんりんピックが行

われます。他の県でも てなしていただいたお 返しができるよう、皆 で盛り上げていけたら 良いですね。

最後に役員の皆様お 世話になりました。あ りがとうございました。



「ターゲット・バードゴルフ」は傘に入れてフィニッシュ。



「グランドシニアの部」で準優勝。 賞状、メダル、目録をいただいた。



ダンススポーツ

(監督兼選手)

ゃょぎしけい じ 山岸慶治さん 62歳

● 参加歴:1回目

がねんりんピックか!

思い出す度に胸が熱くなる、感動の団体決勝戦

「決勝進出6組のチームは、40番横浜市!」「ヤッタ〜! バンザ〜イ!」

チーム8人が、中学生のように飛び上がり肩 をたたき合い、心が一つになった瞬間でした。

そして決勝。「40番~40番~」コールは大きく響き、応接合戦ではダントツ1位。仲間の声援を受けて各組が最高のパフォーマンスを発揮して……。「4位は、横浜市!!」

胸の奥から喜びが湧き上がりました。4回の 選考会を経て代表に選ばれ、この日を目標に練 習を重ねた日々が、すうっと頭の中をよぎって いきました。

長崎県を挙げての熱烈歓迎ムード、想像を超 えた大規模な開会式、そこに集う各分野精鋭の 参加者の熱気に、初めて参加した私たちは、驚 き圧倒されました。

迎えたダンススポーツ大会。会場は、62歳の 私たちが若く見える先輩方ばかり。最高齢は84歳とか。過去16年間数多くの競技会を経験してきましたが、いつもと勝手が違います。「皆さ して得られた感動の瞬間です。思い出す度に胸が熱くなります。 ダンスを始めたのは、20年程前、会社のダンスパーティーでお客様の相手ができるようにと、業務命令でレッスンを受けたことがきっかけでした。どうせ習うなら、定年後、妻と2人で楽しかならなが完め、

んパワフルだ! よく動いている! そうか、これ

私たちは午前のラテン個人戦から出場。出だ

しから音楽に乗れずにかみ合わず、立て直す余

裕もないまま進行。 4次予選進出者に名前はありませんでした。「のまれてしまった」。しかし、

その瞬間、午後の団体戦に向けての闘志がメラ

メラと燃え上がり、気持ちが切り替わりました。 団体決勝戦は一致団結。心の底から楽しく、そ

しめたらと教室へ。いつしか夫婦でその魅力に 引き込まれ、今ではダンスが生きがいとなって います。プロ教師の指導とサークル練習会での 指導を受けながら、週2回ほど自主練習をし、 昇級を目標に、全国規模で盛んに開催される競

技会にも、月1~2回出場しています。

ダンスを通じての交流は私たちにとって、かけがえのない財産です。これから迎える超高齢化社会、体力気力に不安を覚えるときもあるでしょうが、「夫婦2人80歳でダンス」を目標に、背筋を伸ばしてダンススポーツを楽しんで続けていきたいと思っています。

ご尽力くださいました横浜市、長崎県、 長崎県ダンススポーツ連盟の皆様、あり がとうございました。



個人での失敗をバネに団体戦に挑み、最高の演技を披露した。(中央)